

## その東西に秀麗な姿を見せる神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk

神戸市西区神出 2011. 3. 11.

雌岡山

雄岡山

## 古代伝説の地「神出」集落の信仰の山 雌岡山と雄岡山 渡来鍛冶技能集団の伝承があると知りました

子午線が走る明石の街をまっすぐ北へ約 10km の明石平野の北の端 西神戸の丘陵地「神出」に 美しい三角形をしたほぼ同じ高さの二つの山 雌岡山(標高 249m) 雄岡山(標高 241m) が東西に並ぶ。

「神出」の地名が示す通り、古代から開けた伝説の地で この二つの山はこの地の神奈備山。特に西側の雌岡山の山頂は日本標準時東経 135 度の子午線が通り、古代鍛冶神「スサノオ」「大己貴(スサノオの子 大国主命)」を祭るこの地の守り神「神出神社」がある。

子午線に並行して 明石と福知山をつなぐ国道 175 号線を北へまっすぐ北へ明石平野を突き切った位置で、東側にある西神ニュータウンの北東数キロのところで、自宅から西の播州や北の丹波へ行くときに いつも見かける山である。

「神出」の地名の由来は神代のころ、大己貴命(おおなむちのみこと=オオクニヌシノミコト)が、雌岡山上に天降りして、ここで百八十一柱の神々を生んだので、この地を「神出」というようになったと伝えられている。

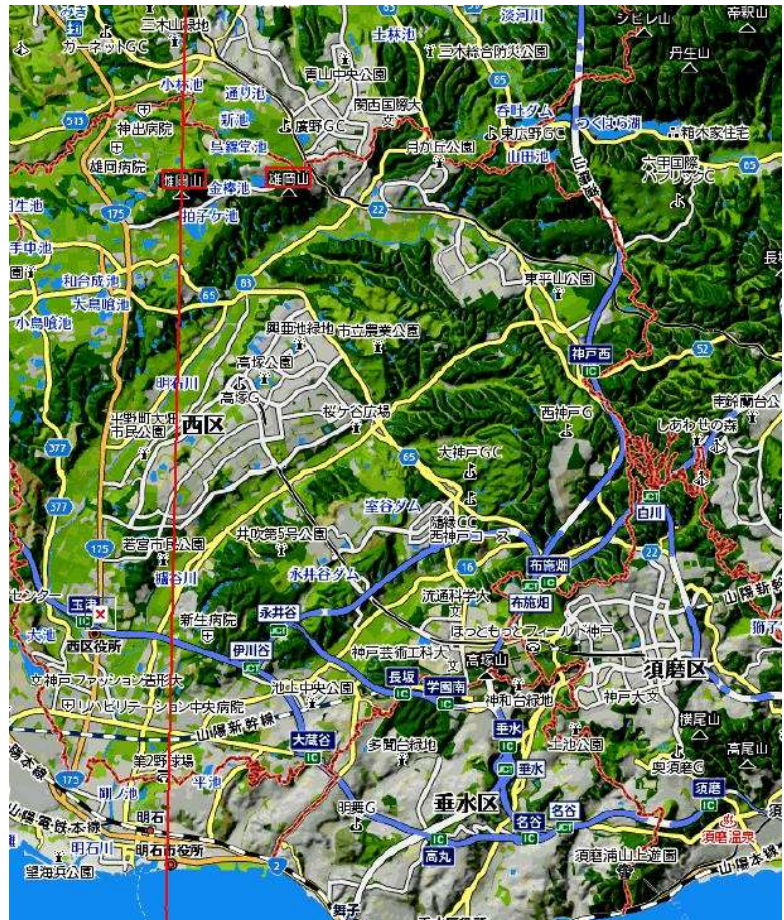
また、この地域一帯は、平安時代から鎌倉時代にかけて、須恵器生産が盛んに行われ、現在約 100 基余りの窯跡の存在が確認されており、「神出窯跡群」と呼ばれ、製作された須恵器は各地に送られ、東北から九州にまで分布しているという。

春が近づくと毎年北播磨の佐用に「カタクリ」の花を見に行くのですが、「今年はどうか?」とインターネットをしらべたら、偶然すぐ近くの雌岡山の南西山腹の斜面で「カタクリ」栽培して、春には花を咲かしている人たちがいることを知り、びっくり。この山にはカタクリが群生していて、春 カタクリが花を咲かせると 集落の娘たちが カタクリの花見を兼ねてこの山中にあるお宮(裸石神社・姫石神社)にお参りしたという。

また、この雌岡山には人工的に掘られた穴が多く、雄岡山の東側押部谷に進出した渡来鍛冶技術集団忍海氏が開発した山で、「金出」=神出となったという説もあり、神出では平安時代「罐子(かんす)」と云う茶釜を作っていたという。

この神出のすぐ北に「金物の街 三木」があり、「神出窯跡群」が出土したときに ひょっとして「たたら郷?」ではないかと山麓を歩いたこともあったのですが、そのまま忘れていました。

「やっぱり 鍛冶伝承のある郷だったんですね」



いつでも登れる低い山。いつでも行けると山麓は何度も遠めのですが、山の中にはいったことなし。

まだ ちょっと時期は早く「カタクリの花」は咲いていないでしょうが、その栽培地をたしかめがてら、鍛冶の郷の痕跡を探そうとやっと暖かくなった3月11日の午後 古代伝承の地「神出」雌岡山・雄岡山 walk にでかけました。

( walk を終え 神戸の農業公園の丘に座って 二つ並んだ雌岡山・雄岡山を眺めている時に、家内からの携帯電話で 東北関東大震災のニュースを聞き あわてて 家に帰ってきました)

## 【 参考 】 1. 古代伝承の地「神出」 雌岡山・雄岡山伝承



神出南から眺めた雌岡山と雄岡山 2011.3.11.



### 1-1. 「神出」の由来となった雌岡山とその山中にある裸石神社・姫石神社

神代のころ、大己貴命が、三角錐の秀麗な山 雌岡山上に天降りして、ここで百八十一柱の神々を生んだので、この地を神出というようになったと伝えられ、そして、後に雌岡山の頂上には素盞鳴尊、奇稲田姫命大己貴命が祀られて神出神社がと  
なった。また 下記の異説も伝承されている。

#### ■ 神出神社の社伝

素盞鳴尊、奇稲田姫命がここに降臨遇会し、両神

は薬草を採取し住民の病苦を救い、禁厭(まじない)を教えて災厄を祓い農耕を指導奨励された。また、二神の間に多くの神々が生まれたが、大己貴命がこの地で誕生されたことから、この地を「神出」という。大同4年平城天皇諸国を巡幸の際にこの地に立ち寄られ、神代の古事をしのび、三柱の神を勧請祭祀されたのが「神出神社」の起こりであるという。



神出神社 祭神は素盞鳴命・奇稲田姫命・大己貴命  
大同4年(809年) 平城天皇の勧請により建立

## ■ 渡来の鍛冶集団忍海部造がこの地を開発「金出」＝神出となったという説

雌岡山は人工的に掘られた穴が多く、忍海部造の採鉱冶金族が開発した山で、「金出」＝神出となったという説もある。

( 雄岡山の東側の谷押部谷は大和葛城山麓の渡来鍛冶技術集団忍海氏の進出地との伝承があり、  
押部谷の地名もこの「忍海」に由来するという。)

また、この地域一帯は、平安時代から鎌倉時代にかけて、須恵器生産が盛んに行われていました。

現在約100基余りの窯跡の存在が確認されており、「神出窯跡群」と呼ばれている。

「神出窯跡群」で製作された須恵器は各地に送られ、東北から九州にまで分布しているという。

### 1-2 雌岡山 山中 縁結びの神様 裸石神社と姫石神社

景行天皇の頃、九州の熊襲を討伐しようと、大和を出発した日本武尊がこのあたりに来た時、雌岡山に立ち寄った。山上で勝利を祈り、「スサノオノ神よ。無事に熊襲を討ち取ることができるなら、この石を羽根のように軽く飛ばせて下さい」と、一つの石を蹴った。すると、大きな石が羽根のように高々と舞い上がり、落ちてくるときはガラガラッと雷鳴のような響きをあげた。そこで人々は、それを雷鳴石と呼んでいたが、いつしかライ石（裸石）と呼ぶようになった。これが、裸石（らいせき）神社の始まりである。

裸石神社のすぐ横の山腹におおきな岩が御神体の姫石神社がある。

見ようによっては女性自身にみえるので「姫石」という。

裸石・姫石神社は雌岡山の中腹にあり、いずれも雌岡山の奇岩（磐座）が御神体で、赤石伝説や神出伝説とも結びついてこの神出の縁結びの神様として 今も親しまれている。



姫石神社の御神体 姫石 磐座か？



裸石神社



姫石神社

### 1-3. 「赤石伝説 - 明石の地名由来 -」 雄岡山・雌岡山

その昔、雄岡山と雌岡間は、遠くから眺めると子牛の角のように見えたことから、男牛（おご）、女牛（めご）と言われていた。

それが、雄子尾、雌子尾となり、やがて雄岡（おっこ）と雌岡（めっこ）になったといわれる。

神話によると、雄岡と雌岡は夫婦の神で、男神の雄岡が小豆島の美人神に惚れたことから、妻が止めるのもきかず鹿に乗り会いに行った。その途中、淡路の漁師に弓を撃たれ、男神と鹿は共に海に沈んでしまった。すると、鹿はたちまち赤い石になり、ここから「赤石」→「明石」となり明石の名称の起こりとも言われている。昔は、雌岡山の神出神社から小豆島が見わたせたといわれる。

### 1-4. 雄岡山・雌岡山の高さ比と金棒池の伝承

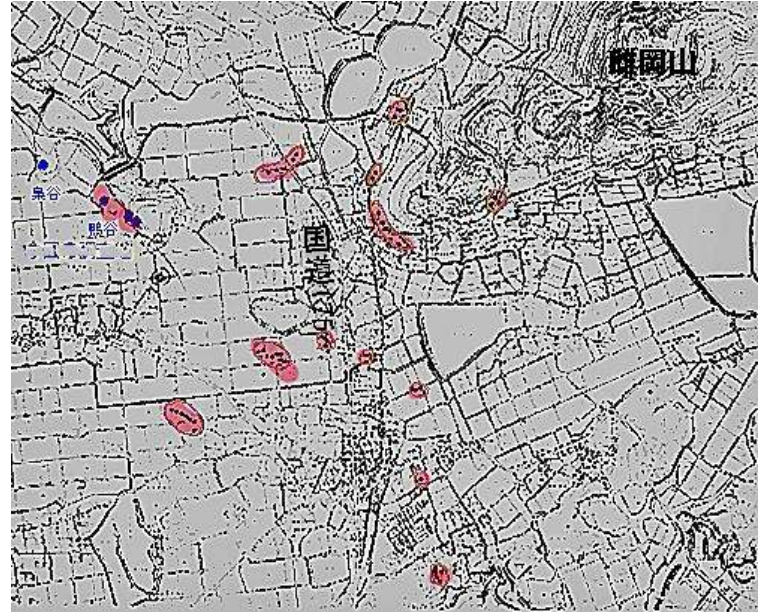
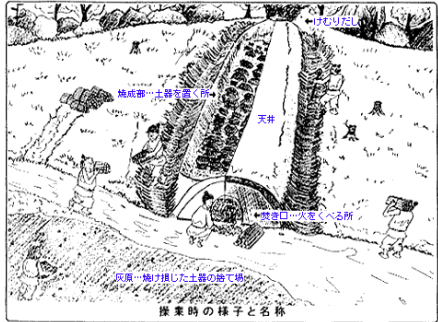
その昔、雄岡山と雌岡山が、金棒を芯にして土を盛って高さ比べをしていたところ雄岡山の金棒が折れて、二つの山の間にささり、その跡が金棒池になった。そのため、雄岡山（標高241m）の方が雌岡山（標高249m）より8m低くなった。

### 1-5. 弁慶と金棒池

雄岡山と雌岡山を庭の築山にしようと考えた弁慶は、二つの山の間に立ち、持っていた金棒の両端を雄岡山と雌岡山に突き刺して持ち上げようとした。金棒は、弁慶の肩の上でしなり、ついに折れてしまった。この時、金棒の落ちた跡に水がたまったのが金棒池である。池の中には小さな二つの古墳があるが、これは弁慶の足跡だといわれている。



## 2. 神出古窯跡群 古代では日太最大の巨大窯発見!



神戸市西区神出(かんで)町で、国道 175 号神出バイパス建設に伴い発掘調査を行い、100 基を超える古い窯跡が出土した。この辺り一帯は、神出古窯址群と呼ばれ、平安時代末～鎌倉時代の須恵器や瓦の一大生産地。長さ 13m、幅 3m の大きな窯もみつき、大窯の規模は、古代の須恵器窯としては、日本最大級。また、神出古窯址群中、最古の窯も発見され、同古窯址群のルーツをたどる大きな手がかりとなっている。

備前焼・丹波焼などの中世六古窯とともに、我が国の中世窯業を代表する生産地の一つで、恵器(すえき)と呼ばれる土器、そして瓦が生産された。

東播系中世須恵器」とも呼ばれる須恵器の鉢は鎌倉時代にかけて大量に生産され、関東から九州に至る広い範囲に流通し、各地で料理に使われた。また、瓦の方は、平安京の寺院からの注文だったようで、京都の鳥羽離宮や、東寺、尊勝寺などの屋根を飾っていたことが、発掘調査で確かめられている。



神出窯跡群の発掘調査 と出土した須恵器・瓦

## 2. 鍛冶神 大己貴命の伝説の地「神出」の神奈備山 雌岡山・雄岡山 Walk

2011.3.11.



摂津/播州国境 須磨 旗振山から眺めた 神出 雌岡山・雄岡山

3月11日 暖かい午後 まだ カタクリの花は咲いていないが、雌岡山の自生地をと雌岡山・雄岡山の登り口を確認しようと出かける。明石から北へまっすぐ三木へ伸びる国道275号線の傍で何度も通ったところであるが、いつでも行けると登ったことはない。神戸の市街地の北側 西神戸の丘陵地の新しく開かれた住宅地を縫って西へ走るバイパスを約20分ほど原付で走って、国道175号線とぶつかったところが 神出集落。いつも見慣れた景色で、気にもとめていませんでしたが、古代からの信仰の山・神奈備山と知って 改めて 雌岡山・雄岡山がほぼ同じ高さ・形で二つ並んでならかな裾野を左右に広げているのを見ると本当に神々しく見えてくる。この優美な姿は海岸沿いの須磨・明石からも見え、西からの播磨/摂津国境越えの目印にもなったに違いない。

もともとは「この雌岡山山腹にカタクリの花の自生地がある」と知って調らべる中、この地が古代製鉄関連地の可能性があるを知って、その痕跡も是非探してみたいと。「神出」が古代から開けた地であることはよく知っていましたが、その伝説が鍛冶神 オオナムチ・スサノウの出雲の神と関連していることを知ったのは最近。

雌岡山・雄岡山のすぐ東 丘陵地の間を明石川が流れ下る平地が渡来の鍛冶集団忍海氏の進出地。この神出のすぐ北隣は「金物の街・三木」である。

「この雌岡山・雄岡山の山麓は古代の産鉄・鍛冶集団にとって魅力ある土地であったに違いない。

カタクリは氷河期の生き残りであり、北播磨の和鉄関連地 佐用・三日月にもカタクリの花が毎年春を告げる。

この雌岡山のカタクリも そんな産鉄地の痕跡かもしれない。山にはまだ産鉄地の痕跡があるに違いないと。

西神戸ニュータウンを抜けて丘陵地を西へ続くバイパスが丘陵地を抜けたところで、明石から北へ登ってきた国道175号線とぶつかる。(田井南) 眼前には播磨平野の東の端 広々と明石平野の田園地が広がっている。この十字路を北に曲がったところが「神出」の集落。国道の西側には広々と田園地 東側には雌岡山から雄岡山の丘陵地が続き、この山裾を取り囲む形で「神出」の集落がある。「京都に田舎あり」というが、「神戸にも 田舎あり」といった田園地帯の小さな集落で、この集落の中を福知山へ向かって縦に兵庫県を貫く大動脈国道175号線が走り抜ける。(瀬戸内と日本海を結ぶ日本で一番低い分水嶺氷上回廊を結ぶ道である。)

田井南交差点から北へ 道に沿って両側に神出の街が広がり、右手に雌岡山がまじかに見える。間もなく雌岡山の山裾がすぐそばになって、老ノ口の信号。この辺りが、神出集落の中心地で、右へ雌岡山の南山裾の高台を東の雄岡山から押部谷へつながるかつての幹道が伸びている。もっと狭い道と思っていましたが、舗装道路のいい道が整備されていて、雌岡山・雄岡山へはこの道を行く。また この辺りから北側一帯が国道175号線の改良工事で出土した神出古窯群の遺跡が点在する場所である。



国道175号田井南交差点(東より)

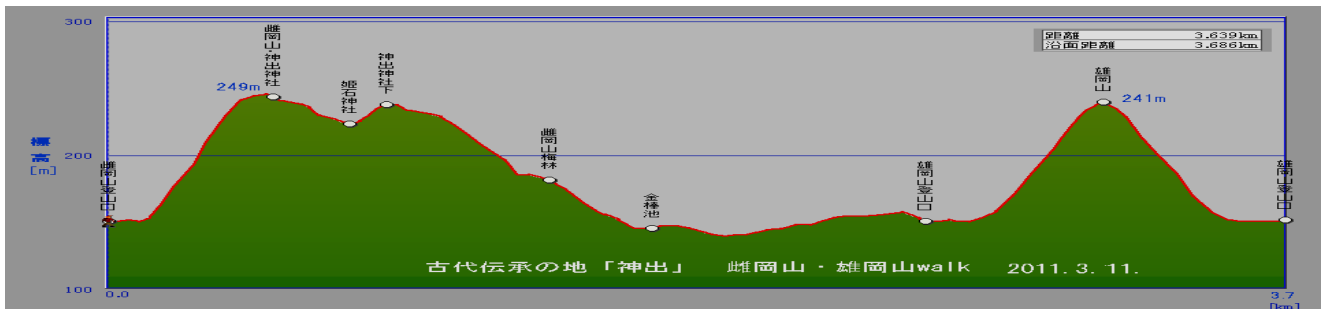
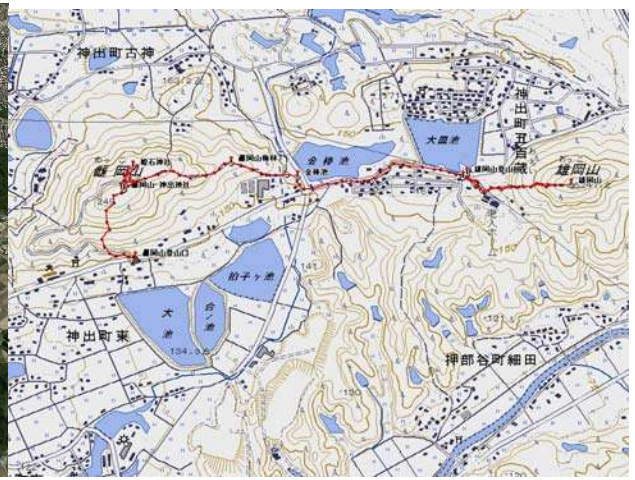


国道175号田井南交差点(南より)



老ノ口周辺より北 右に雌岡山

Google Map ストリートビューより 国道175号線 神出集落



老の口から、東へ雌岡山の南山裾に広がる集落の中を抜け、どこかに登り口はないかと原付を走らせる。道の反対側下にはいくつかため池が点在する広大な田園地が広がっている。神出中学の下を抜けると雌岡山の山腹が道脇にせまり、大きな石の鳥居のある神出神社の参道横に出て、舗装された参詣道が山を登ってゆく。ここから山へ登れる。



見逃した神出中学東門にある子午線標識 雌岡山の登り口 神出神社石の鳥居前 鳥居前にある雌岡山の案内板

山が小さいので 国土地理院の地図では 様子がよく判らなかったのですが、すぐ横に雌岡山の案内板があり、雌岡山はよく整備された公園になっていて、神出神社のある雌岡山頂上まで車で登れ、またしっかりした直登の参詣道があることが分かった。

そのまま車道を登るのも芸がないし、20 分も登れば 頂上まで行けそう。「カタクリの自生地」の位置を探すことも考えて、鳥居の横の道脇に原付を止めて歩いてゆく。

山腹を斜めに登る参詣道を少し上ると 直角に頂上へ向かって直登の道が切り開き道が斜めにクロス。道脇に神出神社まで400m 反対側100m ほど行くと子午線標識の標識が立っている。先ほど通過した神出中学の東門から子午線上をまっすぐ神出神社・雌岡山山頂へ登る直登の参詣道である。(来る時見過ごしていましたが、神出中学東門の所の丘に子午線標識がありました)



子午線上を直登の神出神社参詣道 2011.3.11.

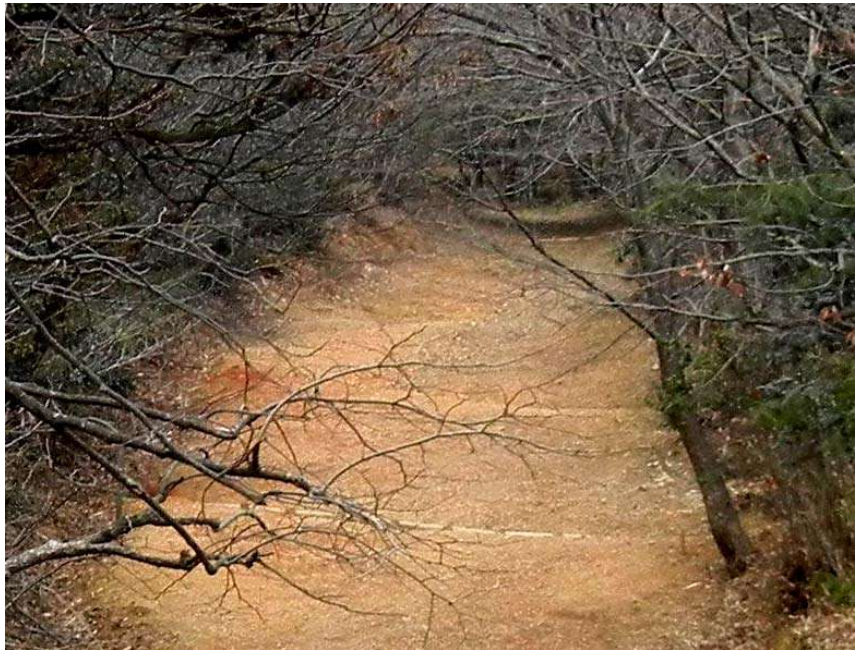
## 2.1. 整備された神出参道は「赤土」がむきだしに 古代鉄鍛冶集団がこの地にいた痕跡か

車道と別れて この切り開かれた急な坂道を行く。幅はひろいのですが、雑木が生い茂る山腹を切り開いて造られた山土むき出しの急な坂道。

はっと気づく「道が赤い 赤土の道」。道のあちこちにむき出しとなった石のかけらも赤い。鉄分が随分含まれているのでは・・・と。

でも ここから北東にある丹生山の辰砂の岩で見た赤にも近い。この赤は 鉄分なのか 辰砂なのかよく判らないが、かなり鉱物が含まれている。

まあ 和鉄の郷の痕跡 鉄分と思いたい。  
この山の北側山腹では水晶が取れたとの話もあり、この雌岡山には鉱物資源があり、古代鍛冶集団が住み着き、古代伝説を生む伝説の郷になったのではないかと考えてくる。  
ポケットにひょいと赤い石のかけらを入れて持ち帰ってきました。



整備された参道は赤土がむきだしに 古代鉄鍛冶集団がこの地にいた痕跡か



雌岡山の神出神社への直登参道で見つけた赤い土と石のかけら 2011. 3. 11.

雑木林に包まれた赤土の参道 子午線の上をまっすぐ歩いて頂上へ登っているんだと思いながら、約 20 分ほどのぼつゆくと正面に石段が現れ、その上に石の鳥居。

それをくぐると 雑木林の向こうへ続く道の奥に神出神社の境内と社殿が見え、雌岡山頂上の神出神社到着である



子午線上をまっすぐ登る参道 頂上部 神出神社への入口周辺 2011. 3. 11.

## 2.2. 雌岡山山頂 神出神社からの明石平野展望と北側山腹にある伝説の姫石・裸石神社



雌岡山山上 神出神社境内からの南東側の大展望 左端北側に雄岡山 右 正面に明石海峡が見える 2011. 3. 11.



神出神社社殿 東に開ける明石平野の大展望を正面に東向いて社殿がある 2011.3.11.

参道を登り切って雌岡山頂上部の南西端から神出神社の境内に入る。周囲を雑木林に囲まれた雌岡山頂上 雑木林を背に展望が開ける南東を向いて社殿が建つ。眼下に広がる明石平野の大展望の先には 明石大橋と淡路島が春の霞の中にうっすら見える。周囲をうっそうとした森に包まれた中に立派な社殿とそれが見晴らす広大な明石平野と明石海峡。信仰の山である由縁がよくわかる。かつては この雌岡山からは 明石から小豆島までが遠望でき、「明石」の地名由来となった「雄岡山・雌岡山」伝承が残る。また、社殿の直ぐ脇にはこの神出神社の由来が書かれた碑があり、出雲の三柱の鍛冶神・開拓神が祭神として祭られている。雌岡山はこの地の神奈備山 眼下に広がる郷は古名「神出」がそのまま受け継がれてきた鍛冶の郷との思いがつのる。



雌岡山山頂 神出神社からの展望【1】 上段: 東の雄岡山(上左) 下段: 眼下に広がる明石平野から明石海峡



東奥に須磨海岸の旗振山から横尾山の山並み



明石海峡大橋から淡路島がうっすらと

## 雌岡山山頂 神出神社からの展望【2】

気楽な散歩で行けるこんなに素晴らしい明石平野の展望台が雌岡山にあるとは全く知りませんでした。

山の展望台からはどうしても 山並み越しに平野部を見ることになるのですが、いきなりどこまでも広がる平野部の展望  
そして その奥に明石海峡。

神出神社境内をふくめ、雌岡山はよく整備された自然公園。車道は北斜面側頂上すぐ下の駐車場まで続き、そのまま東に  
緩やかな山腹にひろがる梅林を経て雄岡山との鞍部 金棒池の岸に出られるようになっている。

お勧めの静かなハイキング コースです。



ゆっくりと明石平野の展望を楽しんだあと 下の鳥居から北側山腹を斜めに  
登ってきた車道の終点の駐車場へ出て 山頂北側山腹にある磐座? 裸石神  
社・姫石神社へ。

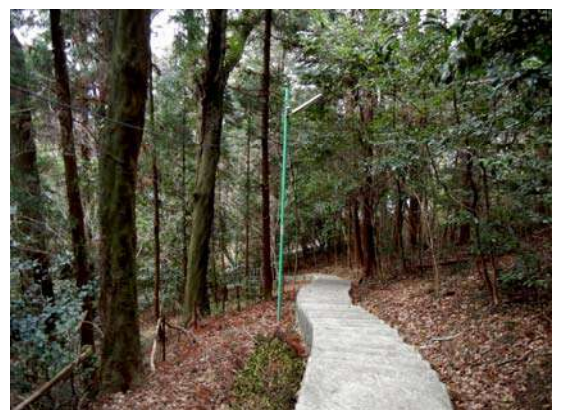
この駐車場からは東の山腹を梅林へ下って行く車道(遊歩道)があるが、入口  
に車止めのロープが張られていましたが、この道が地図にある金棒池へ下  
る道である。このまま東へ下ると裸石神社・姫石神社や「カタクリの自生地」も  
探せないで、裸石神社・姫石神社を見て 一旦 車道を鳥居まで下って、再  
度 原付で登りなおして ちょうど見頃と思われる梅林へ行くことにする。

駐車場から神出神社のある頂上の下を回り込むように車道を下ると車道脇  
に姫石・裸石神社の大きな石柱が建ち、まっすぐ斜面を下る階段道が崖下へ  
続く。人っ子一人いない静寂と木々に包まれた山腹につけられた急な階段  
道を下ってゆくと山腹にへばりついて、裸石神社の小さな社があり、そこから  
少し横へトラバースしたところに石柱垣に囲まれた巨岩が祭られていて、ここ  
が姫石神社である。

どちらも 古代伝承の残るこの地の古くからの縁結びの神様で、裸石神社は  
小さな社殿があるが、姫石神社には社殿がない。

裸石神社は男性 姫石神社は女性シンボルと見立てた奇岩が御神体と聞く。

裸石は社殿の裏から覗きこむことができました。





裸石神社



姫石神社



雌岡山の北山腹の山中にある奇岩が御神体の裸石・姫石神社 この地の古くからの縁結びの神様である

「むかし、この地の娘たちは 春「カタクリの花」が咲くとアワビの貝殻をもって雌岡山に登り、この裸石神社・姫石神社へお参りしたという。」と聞きました。とってつけたような話で 信憑性はちょっと・・・。

でも この地の守り神(神出神社)が見下ろす誰もいない静寂の山中 奇岩に込めた土着の信仰はあったに違いない。

姫石神社からはそのまま南へ山腹に沿ってトラバースしながら下ってゆく小道がついているが、「カタクリの自生地」を探したくて 再度元の車道のところまで戻る。南へ北側山腹を眼をキョロキョロさせながら少し下ったところ、車道の上の斜面雑木林を切り開いたところに「カタクリ」の栽培地がありました。

この地に入る階段が通行止めにされていて 中にまだ入れませんでした。 4 月上旬 可憐な花を咲かせると聞きましたので、今年はずいこの神出のカタクリの花を見ようと思っています。



雌岡山 カタクリの自生・栽培地 2011. 3. 11.



ニイ塚(古墳?)

雌岡山の北斜面に沿って南側へ  
ニイ塚(古墳?)の横を通って車道をさらに下って  
石鳥居の登山口まで 頂上から約 30 分ほどで、戻ってきました。  
今度は原付で車道を登って頂上を乗越して東側の山腹を梅林から金棒池へ。

### 2.3. 雄岡山を見晴らす雌岡山 東山腹に広がる満開の梅林



雄岡山を見晴らす雌岡山 東山腹に広がる満開の梅林 2011. 3. 11.



雄岡山



農業公園から西神



西神ニュータウンから明石

雌岡山東山腹梅林よりみる雄岡山から明石の眺望 2011. 3. 11.

雌岡山頂上から東へなだらかな山腹をくだると満開の花が咲く梅林。その向こうに円錐形の雄岡山が実に美しい。

山が低いので雌岡山と雄岡山の間にある伝説の金棒池は見えない。どうも開園前で満開の梅が独り占めである。

雄岡山の方が少し低いが、この周辺からは形が整っていて 実に美しい。

梅林を下りきったところが、金棒池の岸で金棒池側からの雌岡山登り口で、ここにも案内板がありました。



梅林から見る雌岡山



金棒池の民話が書かれた案内板が立つ金棒池の西端岸 2011. 3. 11.

## 2. 4. 金棒池から雄岡山頂上へ



金棒池民話と金棒池から見る雌岡山と雄岡山 2011. 3. 11.

雌岡山の東側登り口を外に出たところが金棒池の西端で、池の向こうに雄岡山が見える。この岸のすぐ南側で、老ノ口から雌岡山の南側を通して 雄岡山から押部谷へ抜ける幹線道路にでる。広い金方池の縁を雄岡山の麓へ。

金棒池の南側に沿って数分 雄岡山に向かって原付を走らせ、雄岡山の端で北側に道が折れまわったところが十字路になっていて、ちょっと北へ入ったところに雄岡山登山口のバス停がある。そこで、歩いていた高校生に雄岡山への道を聞くと折れ曲がりの角 南への細い道を入ったところに登り口があると教えてくれた。



雄岡山の端 金棒池の東端に雄岡山登山口のバス停 2011. 3. 11.

雄岡山の山腹に沿って雑木林の間の細い道を入れてゆくと、デイサービス建物の入り口にぶち当たり、その前から左手に雄岡山への案内標識が立っていて、雑木林の中を細い登山道がまっすぐ頂上へ続いていた。

この雄岡山の登山道のある山腹全体がどうも私有地のようで、雌岡山のように整備された公園にはなっていないが、ただ一本細い山道がまっすぐ頂上を越えて北の神鉄緑ヶ丘駅へ伸びていてハイキングコースになっているようだ。



雄岡山への登り口 南側のこの登山口から真直ぐ北へ 頂上への登山道



雑木林の中 山腹を北へまっすぐ続く雄岡山への登山道 2011. 3. 11.

雌岡山では道が鉄分を含むと思われる真っ赤な土だったので、この雄岡山の登山道にも赤土がないかと探しながら登りましたが、赤土の部分は見つかりませんでした。なだらかな雑木林の中を歩いて約 15 分ほどで 小さな祠がある頂上の広場に出ました。そして 雑木林に包まれた中 南側が開け、明石方面が見渡せるのですが、残念ながら うっすらと淡路島が見えるだけで 明石海峡大橋は確認できませんでした。

でも ここも 霞が取れば 遮るもののない素晴らしい眺望ポイントになると思われます。



雄岡山頂上 241m からの眺望 うっすらと淡路島が見える明石海峡遠望 2011. 3. 11.



雄岡山頂上標高 241m 小さな祠と一等三角点がありました



祠の横にある雨乞い石



一等三角点

雄岡山では古くからこの祠の前で雨乞いが行われていたという。

祠に祭られているのは木花佐久屋比売命(このはなさくやひめのみこと)という女神と帝釈天。旱魃の時・石のご神体に墨を塗り雨乞いをする。ご祭神はきれいな女神であるため、早く雨を降らして黒色を落とそうとされる言うのである。

古くから伝承されてきた素朴な祭りで、数々の伝承とともにこの優美な姿の雄岡山が信仰の山である証拠であろう。

信仰の山 雄岡山の祠 そして雌岡山の神出神社の社殿いずれもが 明石海峡を正面になるように祭られており、明石海峡を強く意識していたことがわかる。 また、この雄岡山の東側は 渡来の鍛冶集団忍海氏の進出地 押部谷であり、この雄岡山・雌岡山に強く惹かれていたに違いないが、この山にまつわる古代伝承や山との関係についてはよく判らない。 この登山路で雌岡山で見た赤土の露出を見つけることができなかったが、インターネットには この雄岡山の登山路でも赤土がみられるとの記述があり、この山にも鉱物資源があったのかもしれない。

## 2.5. 雄岡山・雌岡山 walk の打ち上げに 二つの山が両方並ぶ姿をとらえる



農業公園から見た雄岡山・雌岡山



雌岡山の神出神社参道 子午線道は鉄分の多い赤土の道

こんな近くで 素晴らしい眺望が楽しめるめるめる気持ちの良いwalk ができるとは全く知りませんでした。

また、古代伝承がある「神出」が渡来の鍛冶集団 忍海氏の進出地 押部谷のすぐ隣であるのに和鉄関連地と結びつけて考えてみたのも今回が初めて。

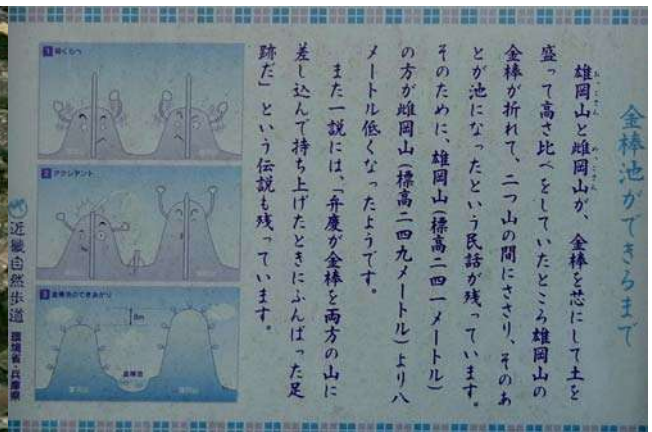
こんな近くで 知らなかったのだから こじつけか・・・とも思っていたのですが、山に入って 赤土で真っ赤な神出神社の参道をみて、この鍛冶神伝承は本物ではないかと思えてきました。もう びっくりです。

Walk の終りに やっぱり 雄岡山 雌岡山 二つの山が立ち並ぶ姿を眺めてみたいと地図を持ち出して検討。

帰り道を神出集落の南のため池の横の田園地帯からは両方の姿がとらえられるだろう。そして、東寄りの神戸農業公園の丘も雄岡山 雌岡山展望の一等地のはずと帰り道に立ち寄ろうと原付を走らせる。

### a. 神出南集落から眺めた雌岡山・雄岡山

眺めた位置が雌岡山に近いので 雌岡山が大きく 形も少しいびつで 二つの山が相似には見えず 神奈備山の神秘性はすこし薄いなあ・・・と。



## b. 神出集落の南東 押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山

神出集落から少し南東にはなれ、雌岡山・雄岡山の距離にあまり差がなくなった 押部谷 神戸農業公園からの雌岡山・雄岡山。 神戸ワインのブドウ畑に二つ並んで優美な姿を見せる雌岡山・雄岡山がみられました。



押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山 【1】



押部谷 神戸農業公園の丘から眺めた雌岡山・雄岡山 【2】

### 【参考】

#### 1. 六甲山系周辺の岩石にまつわる民話と伝承

##### ⑮ 雄岡山と雌岡山(神奈備山)

<http://www.eonet.ne.jp/~yamauo2005/minwa2.html>

#### 2. 神の座す山と神出の里

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystat>

#### 3. 【和鉄の道・Iron Road】

##### 1. 神戸の北端 丹生山に古代の赤「朱土・辰砂」を訪ねる 神戸和鉄の山郷 押部谷・志染・丹生山・淡河 Walk

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron02.pdf>

##### 2. 金剛・葛城山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf.pdf>

